

スギのコンテナ苗を小型・軽量化しました

農林センター

問い合わせ先:農林センター森林技術センター 0771-84-0365

主な成果

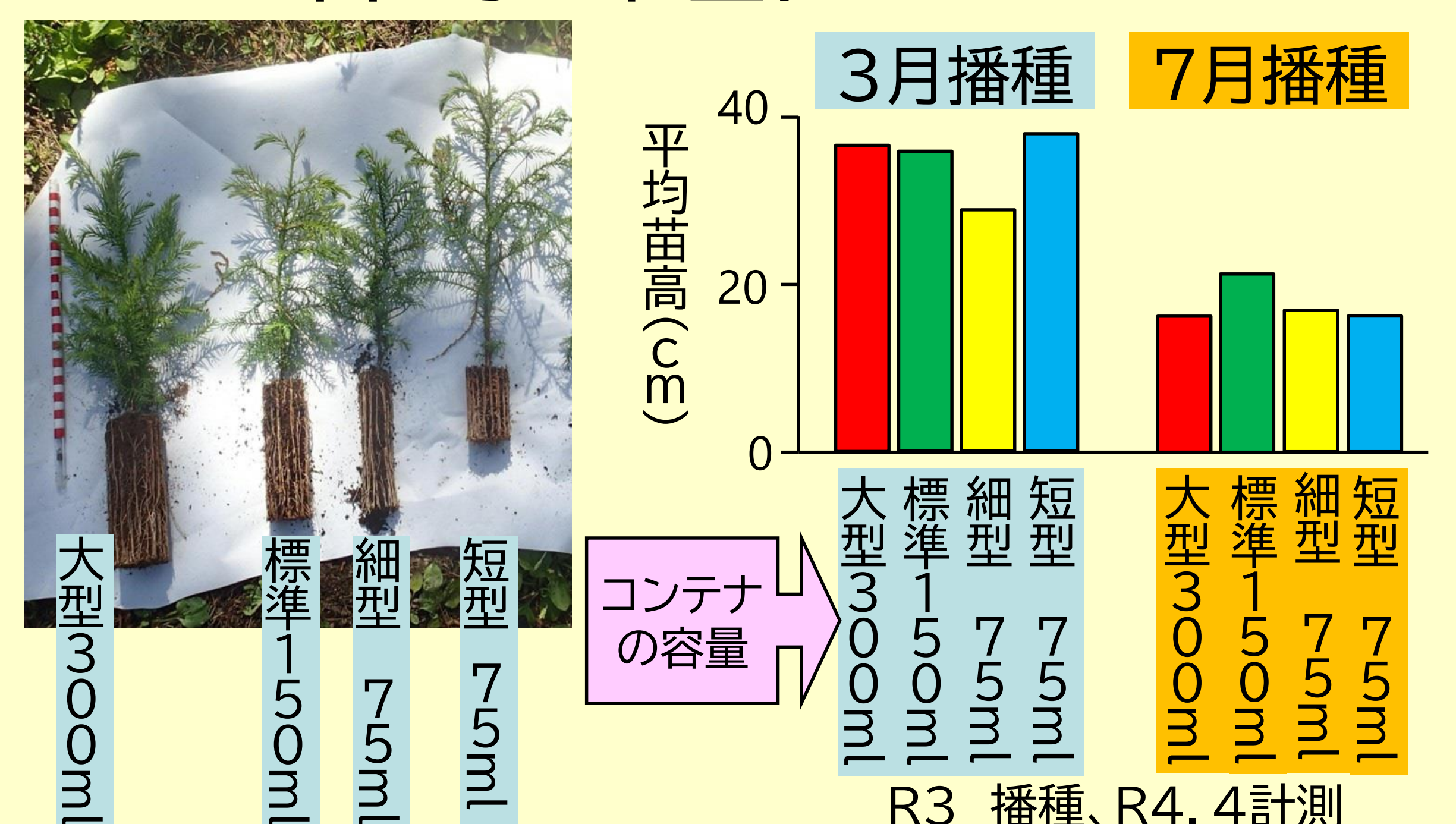
- スギについて、育苗コンテナの容量を標準の150mlから75mlにしても、苗1本あたりの施肥量を同じにすれば、同じサイズの苗を育てることが可能でしたが、育苗条件によっては成長が悪くなる場合があります。最適育苗条件は特定しきれませんでした。
- 小型コンテナ苗は標準サイズに比べ、容積は7割、容積は6割に小型、軽量化できました。
- 小型コンテナ苗は、標準サイズと比べ、山林に植栽後の定着率や成長量にも差がありませんでした。

コンテナ苗とは



育苗コンテナ(写真左)で育てるポット苗の仲間で、植栽適期が長く、林地での保管も容易ですが、重く嵩張るため、小型軽量化を試みました。

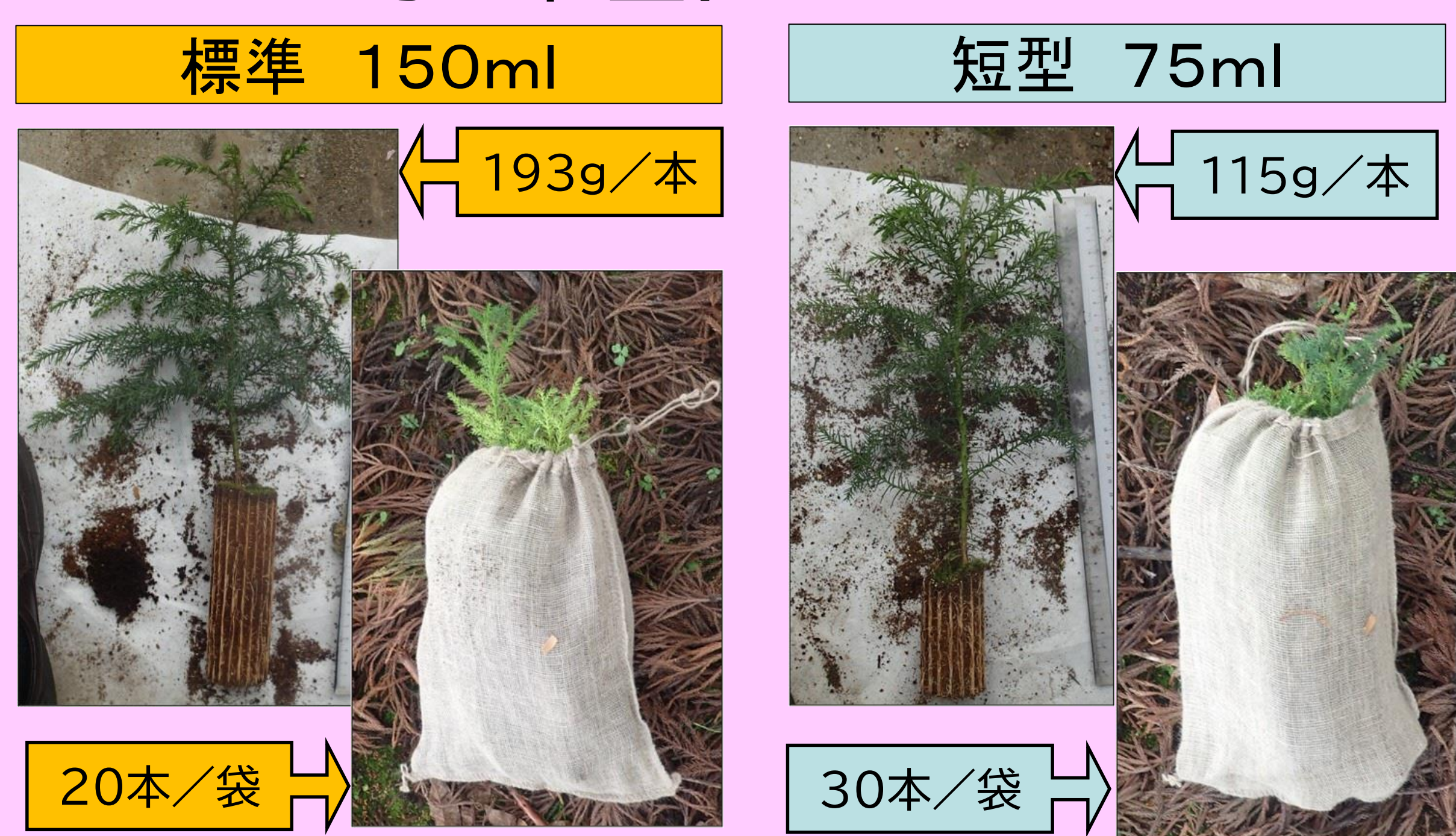
コンテナ苗の小型軽量化



● 苗1本あたりの施肥量が同じなら、高さを半分(短型75ml)にしても標準150mlのコンテナと同じように苗を育てることが可能でした。

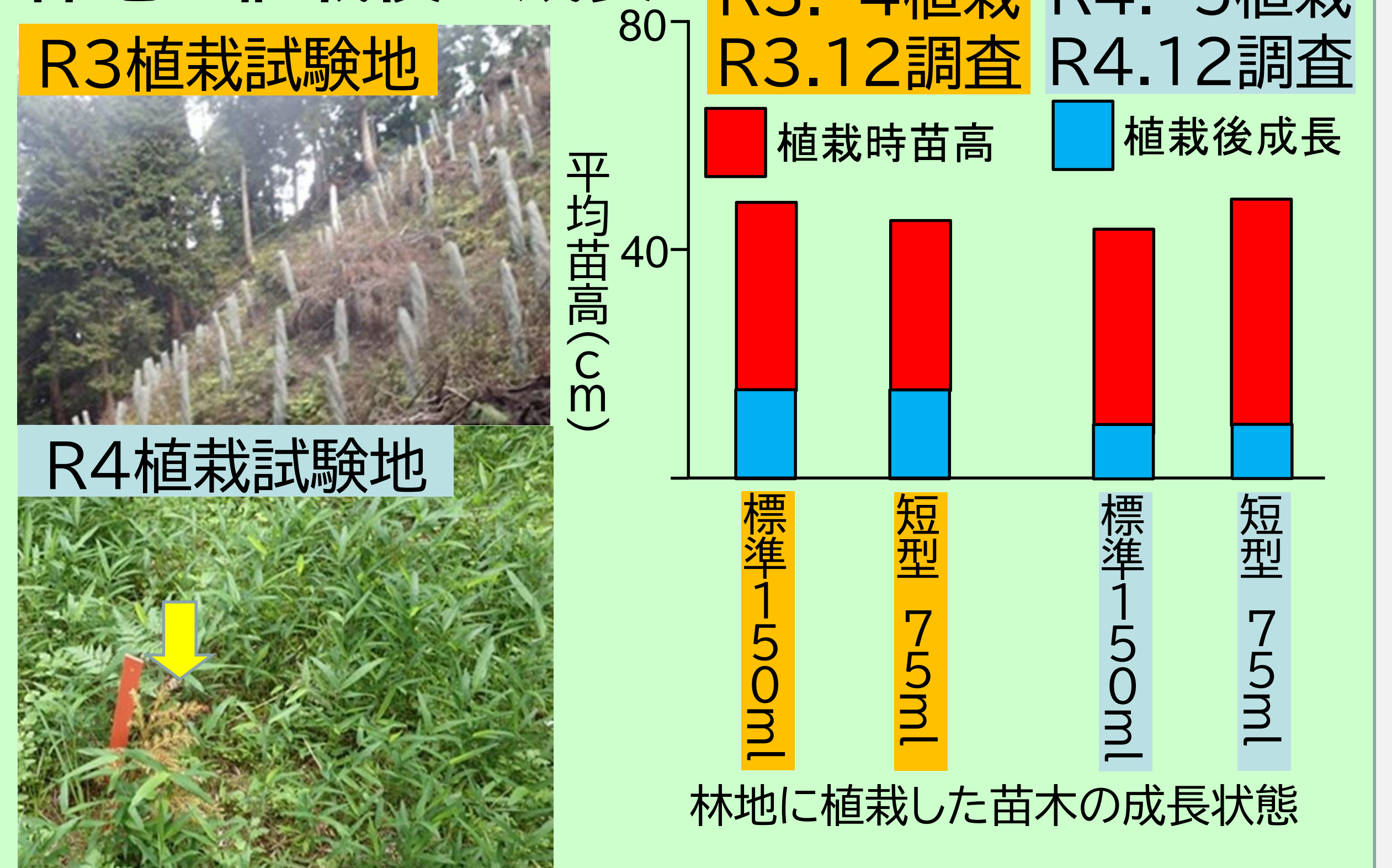
● 育苗条件により成長が悪くなる場合があります、条件の特定が必要です。

どれくらい小型軽量化できた？



試験ではMスターコンテナを使い、枝張りを良くするため育苗間隔を広くしていますが、JFAコンテナで育てた標準の苗はもっとスリムで、より多く運べます。形状と輸送性の兼ね合いについて検討が必要です。

林地に植栽後の成長



植栽後の成長量は標準150mlと短型75mlで差がありませんでした。

- 小型軽量化により、コンテナ苗はより使いやすくなり、また、一度に運べる量が増えるため、造林コスト削減にもつながります。

期待される波及効果

- 技術として普及するには、育苗条件等の解明がもう少し必要です。また、樹木は育成期間が長く、失敗したときやり直しにくいいため、苗木にも高い信頼性が求められます。植林実績を積むことによる信頼性の向上が必要です。

(本研究では木材開発株式会社京丹波育苗センターの協力をいただきました。)